

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-222231

(43)Date of publication of application : 11.08.2000

(51)Int.Cl.

G06F 11/00

G06F 9/06

(21)Application number : 11-023194

(71)Applicant : NEC SOFTWARE KOBE LTD

(22)Date of filing : 29.01.1999

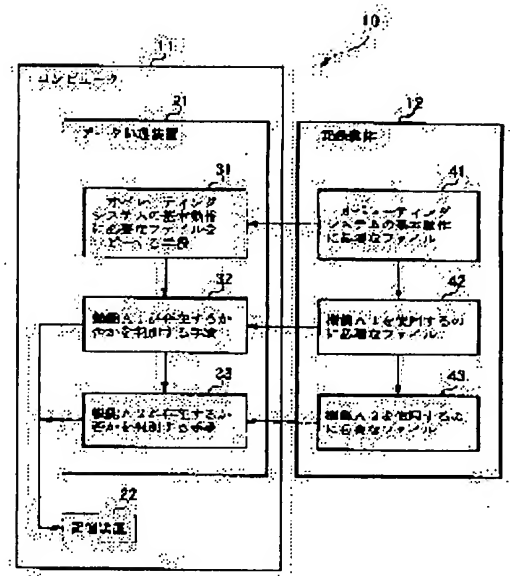
(72)Inventor : NAGAO KAZUHIKO

(54) RESTORATION METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To restore only a required function in accordance with an objective computer.

SOLUTION: A means 31 for copying a file required for the basic operation of an operating system copies a file required for the basic operation of the operating system stored in a recording medium 12. A means 32 for discriminating whether a function A1 exists or not checks whether the function A1 exists in the computer 11 executing a restoring program and in the case when the function A1 exists in the computer 11, copies a file 42 required for using the function A1 to a storing device 22 from the medium 12. A means 33 for discriminating whether a function A2 exists or not copies a file 43 required for using the function A2 of the medium 12 to the device 22 in the case when the function A2 exists in the computer 11.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 29.01.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 29.08.2000

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-222231

(P2000-222231A)

(43)公開日 平成12年8月11日(2000.8.11)

(51)Int.Cl.⁷

G 0 6 F 11/00
9/06

識別記号

3 3 0
4 1 0

F I

G 0 6 F 11/00
9/06

テ-マコ-ト*(参考)

3 3 0 B 5 B 0 7 6
4 1 0 C

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-23194

(22)出願日 平成11年1月29日(1999.1.29)

(71)出願人 000192545

神戸日本電気ソフトウェア株式会社
兵庫県神戸市西区高塚台5丁目3番1号

(72)発明者 長尾 和彦

兵庫県神戸市西区高塚台5丁目3番1号
神戸日本電気ソフトウェア株式会社内

(74)代理人 100108578

弁理士 高橋 詔男 (外3名)

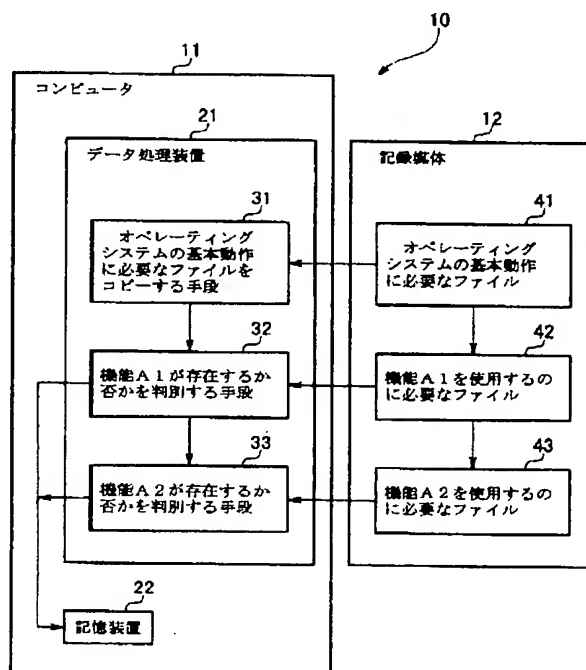
Fターム(参考) 5B076 AA01 AA05

(54)【発明の名称】 リストア方法

(57)【要約】

【課題】 対象とされるコンピュータに応じて、必要とされる機能についてのみリストアを実行する。

【解決手段】 オペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルをコピーする手段31は、記録媒体12に格納されているオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイル41を記憶装置22にコピーする。機能A1が存在するか否かを判別する手段32は、リストアプログラムが実行されているコンピュータ11に機能A1が存在するか否かのチェックを行い、コンピュータ11に機能A1が存在した場合、記録媒体12から機能A1を使用するのに必要なファイル42を記憶装置22にコピーする。機能A2が存在するか否かを判別する手段33は、コンピュータ11に機能A2が存在した場合、記録媒体12の機能A2を使用するのに必要なファイル43を記憶装置22にコピーする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 リストア用媒体から、コンピュータのオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルと、前記コンピュータが具備する所定の機能を使用するために必要なファイルとを読み込んで、前記コンピュータに記憶するリストア方法であって、

前記リストア方法は、前記コンピュータに前記所定の機能が存在するか否かを判別ステップを含んでおり、前記コンピュータに前記所定の機能が存在しない場合には、前記所定の機能を使用するためのファイルを前記コンピュータに記憶しないことを特徴とするリストア方法。

【請求項 2】 前記リストア用媒体は、前記オペレーティングシステム及びアプリケーションソフトウェアが予めインストールされた状態で出荷される全ての種類の前記コンピュータで必要とされる全ての前記ファイルを格納していることを特徴とする請求項 1 に記載のリストア方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、オペレーティングシステム及びアプリケーションソフトウェアがインストールされた状態で出荷されるコンピュータに添付されるリストア用媒体によるリストア方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、オペレーティングシステム及びアプリケーションソフトウェアがインストールされた状態で出荷されるコンピュータには、例えば磁気ディスク、半導体メモリおよびその他の記録媒体の形式で、リストア用媒体が添付されている。リストア用媒体は、例えばコンピュータのオペレーティングシステム及びアプリケーションソフトウェアの再インストール等に使用されるため、例えばオペレーティングシステムの基本動作に必要なとされるファイルや、例えばサウンド機能やモデム機能等の各種の機能を使用するために必要とされるファイル等を格納している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、上記のようなリストア用媒体を用いてリストアを行う際に、出荷時におけるコンピュータのハードウェア構成と異なるコンピュータについては何等考慮されていないため、例えば、機種異なるコンピュータばかりでなく、出荷時と同じコンピュータであっても、ハードウェア構成が変更されていれば、出荷時に添付されたリストア用媒体を用いてリストアを行うことができなくなる恐れがあった。本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、対象とされるコンピュータに応じて、必要とされる機能についてリストアを実行することが可能なリストア方法を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決して係る

目的を達成するために、請求項 1 に記載の本発明のリストア方法は、リストア用媒体から、コンピュータのオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルと、前記コンピュータが具備する所定の機能を使用するために必要なファイルとを読み込んで、前記コンピュータに記憶するリストア方法であって、前記リストア方法は、前記コンピュータに前記所定の機能が存在するか否かを判別ステップを含んでおり、前記コンピュータに前記所定の機能が存在しない場合には、前記所定の機能を使用するためのファイルを前記コンピュータに記憶しないことを特徴としている。

【0005】上記のリストア方法では、対象とされるコンピュータの例えばハードウェア構成等の環境に応じて、必要とされる機能を使用するためのファイルのみを対象としてコンピュータにコピーを行うため、コンピュータに必要な無い機能に対してはファイルのコピーは実行されずに、対象とされるコンピュータに最適な環境を構築することが可能となる。

【0006】さらに、請求項 2 に記載のリストア方法は、前記リストア用媒体は、前記オペレーティングシステム及びアプリケーションソフトウェアが予めインストールされた状態で出荷される全ての種類の前記コンピュータで必要とされる全ての前記ファイルを格納していることを特徴としている。

【0007】上記のリストア方法では、例えば 1 つのリストア用媒体に、複数のコンピュータのそれぞれに具備される全ての機能を使用する際に必要とされる全てのファイルを格納しておくことによって、たとえ、出荷されるコンピュータの構成等が異なる場合においても、一つのリストア用媒体を共通にして使用することができ、リストア用媒体を作製する際の手間を省くことが可能になると共に、リストア用媒体の作製コストの削減に資することが可能となる。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明のリストア方法の実施形態について添付図面を参照しながら説明する。図 1 は本発明の一実施形態に係わるリストア方法を実現するコンピュータシステムの要部ブロック構成図である。本実施の形態によるリストア方法を実現するコンピュータシステム 10 は、図 1 に示すように、コンピュータ 11 と、記録媒体（リストア用媒体）12 とから構成されている。プログラム制御により動作するコンピュータ 11 は、データ処理装置 21 と、記憶装置 22 とから構成されている。データ処理装置 21 は、コンピュータ 11 上のオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルをコピーする手段 31 と、コンピュータ 11 に例えばサウンド機能やモデム機能等の機能 A1 が存在するか否かを判別する手段 32 および機能 A2 が存在するか否かを判別する手段 33 とを備えている。

【0009】記録媒体 12 は、例えば磁気ディスク、半

導体メモリおよびその他の記録媒体からなり、コンピュータ 11 のオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイル 41 と、機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 および機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 を備えている。オペレーティングシステムの基本動作に必要なファイル 41 には、リストアしようとしているオペレーティングシステムが標準で組み込むファイルが全て格納されている。機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 には、機能 A1 を使用するのに必要なファイル及び、機能 A1 の設定に必要な情報を保持するファイルが格納されている。機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 には、機能 A2 を使用するのに必要なファイル及び、機能 A2 の設定に必要な情報を保持するファイルが格納されている。

【0010】本実施の形態によるリストア方法を実現するコンピュータシステム 10 は上述の構成を備えており、次に、コンピュータシステム 10 におけるリストア方法の動作について図 1 から図 3 を参照しながら説明する。図 2 は本実施の形態によるリストア方法の動作を示すフローチャートであり、図 3 は本実施の形態によるリストア方法の動作を示す図である。図 2 において、先ず、例えば記録媒体 12 に格納されているリストア用プログラムが起動する。データ処理装置 21 のオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルをコピーする手段 31 は、記録媒体 12 に格納されているオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイル 41 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ S1）。

【0011】次に、機能 A1 が存在するか否かを判別する手段 32 は、リストアプログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 A1 が存在するか否かのチェックを行う（ステップ S2）。ここで、コンピュータ 11 に機能 A1 が存在した場合（ステップ S2 の YES 側）、記録媒体 12 の機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ S3）。次に、機能 A2 が存在するか否かを判別する手段 33 は、リストアプログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 A2 が存在するか否かのチェックを行う（ステップ S4）。ここで、コンピュータ 11 に機能 A2 が存在した場合（ステップ S4 の YES 側）、記録媒体 12 の機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ S5）。

【0012】次に、具体例を用いて本実施形態によるリストア方法の動作について説明する。例えば、図 3 に示すように、機能 A1 がサウンド機能であり、機能 A2 がモデム機能であるとし、コンピュータ 11 には、機能 A1 はあるが機能 A2 はないとする。先ず、サウンド機能（機能 A1）が存在するか否かをチェックする手段 32 は、コンピュータ 11 にサウンド機能が存在することを確認する（ステップ S2）。これによって、記録媒体 12 のサウンド機能（機能 A1）を使用するのに必要なフ

ファイル 42 はコンピュータ 11 の記憶装置 22 にコピーされる（ステップ S3）。次に、モデム機能（機能 A2）が存在するか否かをチェックする手段 33 は、コンピュータ 11 にモデム機能がないことを確認する（ステップ S4）と、モデム機能を使用するに必要なファイル 43 は不要であるため、記憶装置 22 へのコピーは行わない。このようにして、コンピュータ 11 には動作に必要な機能 A1、すなわちサウンド機能のみがリストアされる。

【0013】本実施の形態によるリストア方法によれば、各機能 A1、A2 のそれぞれを使用するに必要なファイル 42、43 には、各機能 A1、A2 を使用するのに必要なファイル及び、各機能 A1、A2 の設定に必要な情報等を保持するファイルが格納されており、各機能 A1、A2 毎に、これらの機能 A1、A2 がコンピュータ 11 に備えられているか否かが判別されており、コンピュータ 11 に必要のない場合には、各機能 A1、A2 に対するリストアは実行されないため、対象とされるコンピュータ 11 の例えばハードウェア構成等にに応じて最適なソフトウェア環境を構築することが可能となる。また、記憶媒体 12 には、機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 に加えて、コンピュータ 11 に具備されていない機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 が格納されており、このようにして、例えばハードウェア構成等の異なる複数のコンピュータのそれぞれに具備される全ての機能、例えば機能 A1 および機能 A2 のそれぞれを使用するのに必要とされる全てのファイル、例えば機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 および機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 を、記憶媒体 12 に格納しておくことによって、一つの記憶媒体 12 を複数のコンピュータに対して共通に使用することができ、リストア用媒体を複数のコンピュータ毎に作製する手間を省くことが可能になると共に、リストア用媒体の作製コストの削減に資することが可能となる。

【0014】なお、本実施の形態においては、記録媒体 12 およびデータ処理装置 21 において、2つの機能 A1 および A2 について処理が行われたが、これに限定されず、以下に示す本実施形態の第一変形例のように、2つを越える複数の機能についてリストアが行われてもよい。図 4 は、本実施形態の第一変形例に係わるリストア方法を実現するコンピュータシステム 10 を示す要部ブロック構成図であり、図 5 はコンピュータシステム 10 におけるリストア方法の動作を示すフローチャートであり、図 6 はリストア方法の動作を示す図である。なお、上述した実施形態と同一部分には同じ符号を配して説明を簡略または省略する。

【0015】図 4 に示すように、データ処理装置 21 は、コンピュータ 11 上のオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルをコピーする手段 31 と、コンピュータ 11 に例えばサウンド機能やモデム機能等の

10

20

30

40

50

機能 A1 が存在するか否かを判別する手段 32 および機能 A2 が存在するか否かを判別する手段 33 および機能 An が存在するか否かを判別する手段 34 とを備えている。記録媒体 12 は、コンピュータ 11 のオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイル 41 と、機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 および機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 および機能 An を使用するのに必要なファイル 44 を備えている。機能 An を使用するのに必要なファイル 44 には、機能 An を使用するために必要なファイル及び、機能 An の設定に必要な情報を保持するファイルが格納されている。

【0016】次に、コンピュータシステム 10 におけるリストア方法の動作について説明する。まず、例えば記録媒体 12 に格納されているリストア用プログラムが起動する。図 5 に示すように、データ処理装置 21 では、オペレーティングシステムの基本動作に必要なファイルをコピーする手段 31 が、記録媒体 12 のオペレーティングシステムの基本動作に必要なファイル 41 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ S1）。次に、機能 A1 が存在するか否かを判別する手段 32 は、リストア用プログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 A1 が存在するかのチェックを行う（ステップ S2）。リストア用プログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 A1 が存在する場合（ステップ S2 の YES 側）は、記録媒体 12 から機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ S3）。次に、機能 A2 が存在するか否かを判別する手段 33 は、リストア用プログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 A2 が存在するか否かのチェックを行う（ステップ S4）。リストア用プログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 A2 が存在する場合（ステップ S4 の YES 側）は、記録媒体 12 から機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ S5）。

【0017】次に、機能 An が存在するか否かを判別する手段 34 は、リストア用プログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 An が存在するか否かのチェックを行う（ステップ T1）。リストア用プログラムが実行されているコンピュータ 11 に機能 An が存在する場合（ステップ T1 の YES 側）は、記録媒体 12 から機能 An を使用するのに必要なファイル 44 を記憶装置 22 にコピーする（ステップ T2）。このようにして、リストア用プログラムを実行したコンピュータ 11 に必要な機能がリストアされる。

【0018】次に、具体例を用いて上記の第一変形例の動作について図 6 を参照しながら説明する。例えば、コンピュータ 11 は、機能 A1 と機能 An とを有しており、機能 A2 を保持していないとする。機能 A1 が存在するか否かを判別する手段 32 は、コンピュータ 11 に

機能 A1 が存在することを確認する（ステップ S2）

と、記録媒体 12 の機能 A1 を使用するのに必要なファイル 42 をコンピュータ 11 の記憶装置 22 にコピーする（ステップ S3）。次に、機能 A2 が存在するか否かを判別する手段 33 は、コンピュータ 11 に機能 A2 が存在しないことを確認する（ステップ S4）と、機能 A2 を使用するのに必要なファイル 43 は不要であるため、記憶装置 22 にはコピーしない。次に、機能 An が存在するか否かを判別する手段 34 は、コンピュータ 11 に機能 An が存在することを確認する（ステップ T1）と、記録媒体 12 から機能 An を使用するのに必要なファイル 44 をコンピュータ 11 の記憶装置 22 にコピーする（ステップ T2）。このようにして、コンピュータ 11 の動作に必要な機能 A1 および機能 An のみがリストアされる。

【0019】

【発明の効果】以上説明したように、請求項 1 記載の本発明のリストア方法によれば、対象とされるコンピュータに応じて、必要とされる機能を使用するためのファイルのみをコンピュータにコピーするため、対象とされるコンピュータに最適な環境を構築することが可能となる。また、請求項 2 記載のリストア方法によれば、例えば出荷されるコンピュータの構成等が異なる場合においても、一つのリストア用媒体を共通にして使用することができ、リストア用媒体を作製する際の手間を省くことが可能になると共に、リストア用媒体の作製コストの削減に資することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施形態に係わるリストア方法を実現するコンピュータシステムの要部ブロック構成図である。

【図 2】 本実施の形態によるリストア方法の動作を示すフローチャートである。

【図 3】 本実施の形態によるリストア方法の動作を示す図である。

【図 4】 本実施形態の第一変形例に係わるリストア方法を実現するコンピュータシステムを示す要部ブロック構成図である。

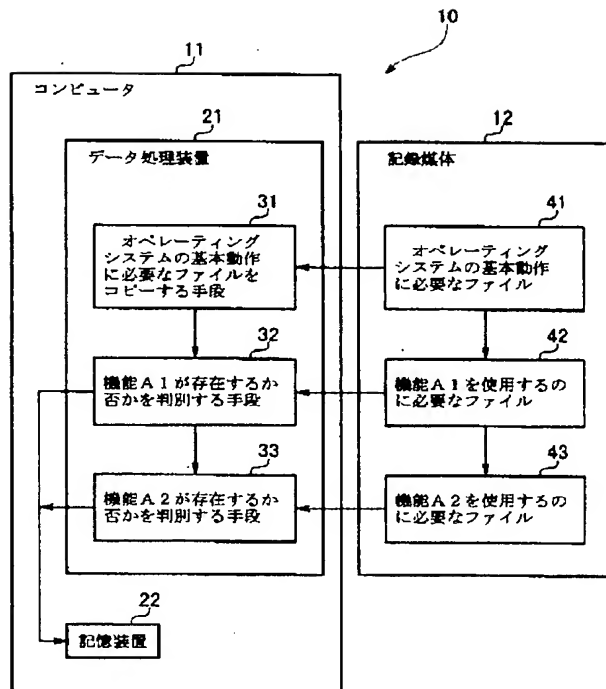
【図 5】 本実施形態の第一変形例に係わるリストア方法の動作を示すフローチャートである。

【図 6】 本実施形態の第一変形例に係わるリストア方法の動作を示す図である。

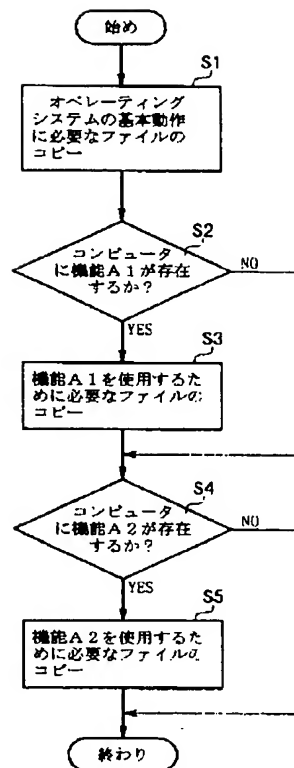
【符号の説明】

- 10 コンピュータシステム
- 11 コンピュータ
- 12 記録媒体
- 21 データ処理装置
- 22 記憶装置

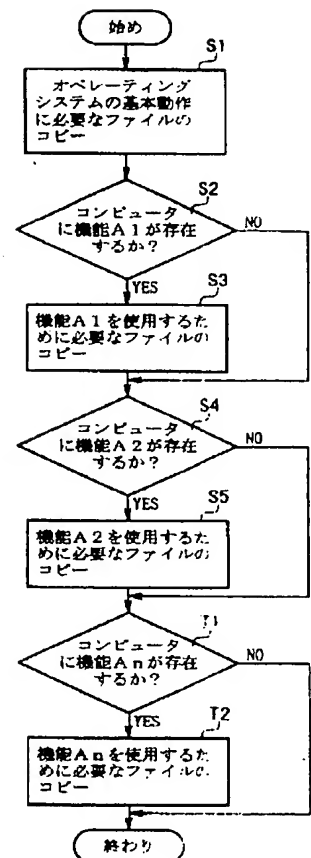
【図 1】



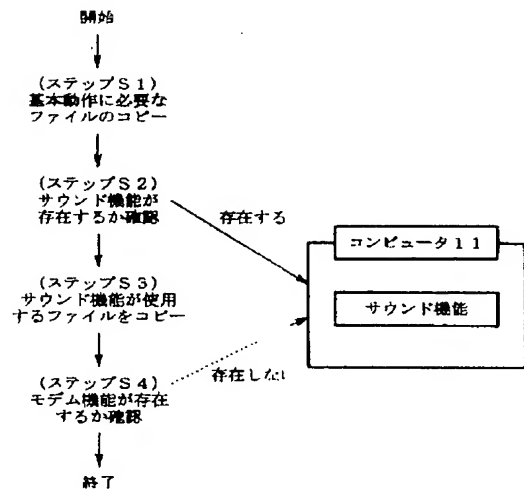
【図 2】



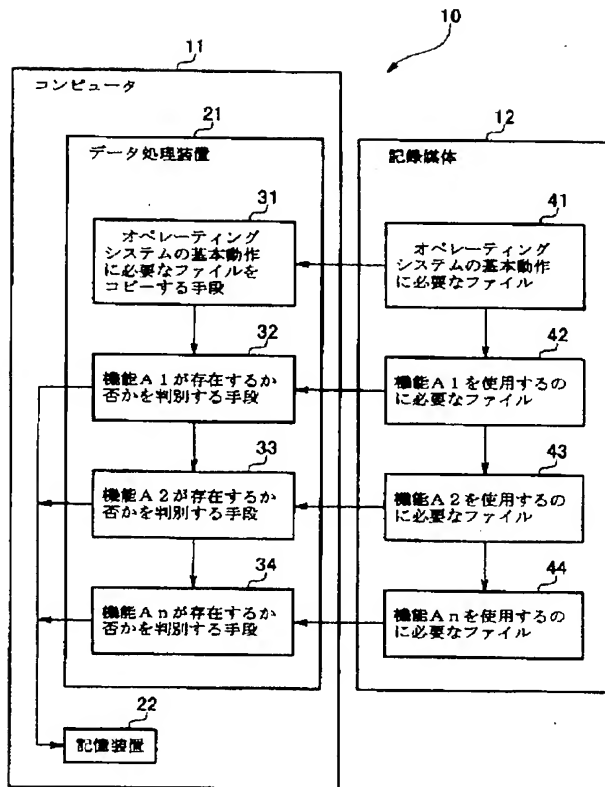
【図 5】



【図 3】



【図4】



【図6】

